

あんなこと、こんなこと

関市イメージキャラクター
「関*はもみん」



11月16日～30日にあった
市内の話題を中心に
ご紹介します。

さわやかな香りに包まれて

ゆずの産地上之保で11月25日、「上之保ゆず祭り」が上之保温泉一帯で開かれ、約3,000人の人出でにぎわいました。好評の「ゆず足湯」にはたくさんの大きなゆずが浮かべられ、訪れる方を癒していたほか、今年初めて上之保地域のゆるキャラ「ゆずりん」も登場し、会場を盛り上げました。早朝から来場者が各店舗に並び、多くの方が新鮮なゆず玉や、さまざまなゆず製品を買い求めたり、ゆずの搾汁体験などで楽しんだり、ゆず一色のイベントを満喫していました。



高萩、越前市と都市連携

市は11月27日、産業振興や災害時の相互応援などを盛り込んだ都市連携協定を、茨城県高萩市、福井県越前市と締結しました。災害発生時、被災した市の要請で他の市が対応する覚書も取り交わしました。3市長がいずれも松下政経塾出身という縁で、6月の首長会議で提案があり、実現しました。今後、3市が連携を深め、産業や観光・文化の振興、人材育成、まちづくりなどの調査研究を図っていくものです。



児童が育てた米を備蓄米に

田原小学校は、2・3年生による米づくり体験での収穫米を災害備蓄米として地元田原地区に贈りました。非常食について理解し、地域防災の推進を図ろうと、社協田原支部が学校に提案し実現。今回贈られた米は10kgずつ3箇所（西田原、桜台、迫間）の備蓄倉庫に保管されます。11月20日に贈呈式が行われ、児童代表が「育てたお米が役に立てると嬉しい。思いやりの気持ちを学校生活でも忘れずにいたい」と話しました。



園児がドッジボールで交流

11月29日、日吉ヶ丘保育園と富野保育園の年長児によるドッジボール大会が日吉ヶ丘保育園で行われ、熱戦を繰り広げました。両園では、5年ほど前から相互に交流を深めていますが、日吉ヶ丘保育園は今年度で閉園となるため、今回が最後の大会に。園児たちはボールを上手にキャッチしたり、よけたりと元気に園庭を走り回り、これまでの練習の成果を存分に発揮しながら、ドッジボールを楽しんでいました。



金竜小学校半世紀をお祝い

金竜小学校は、今年で創立50周年を迎え11月17日、全校児童や関係者が集まって記念式典が開かれ、運動場内に設置された時計塔の記念碑を除幕し、半世紀の節目をお祝いしました。児童らは「大人になっても自慢できる居心地のいい学校を目指す」と誓い合ったほか、来賓から「明るい未来に向かって進んで」と呼びかけられました。最後に、招待された関商工高校吹奏楽部による演奏に合わせ、全員で合唱が披露されました。



本の楽しさを伝えます

全国で長年読書推進運動に貢献した団体などに贈られる「野間読書推進賞」を「関音訳の会しおん」が受賞し11月22日、会長らが尾関市長に報告しました。「しおん」は、視覚障がい者のために、広報や社協だよりなど数種類の刊行物や図書を朗読し、録音したテープを作っているボランティア団体です。読書の楽しみや暮らしに役立つ情報を伝えるべく、35年の長きにわたって音訳活動が続けている功績が評価されました。



グラフに加工、一目でわかる

桜ヶ丘小学校6年生を対象に11月21日、県統計課職員による「データ活用講座」が開催されました。「関市の刃物は日本一」をデータから確かめる作業に挑戦。県別の理髪用刃物や包丁の出荷金額などのデータを、棒グラフや円グラフにまとめました。同じデータでもグラフによって「出荷額が断然多い」や「全国の4分の3を占めている」など、児童らは読み取り方の特徴を学び、改めてデータ活用の大切さに気づいていました。

こぼれ話

11月25日に洞戸地域で開催された「ほらどキウイマラソン」の取材に行ってきました。3,000人に迫る本当に多くの皆さんが、3km、5km、10kmの各コースを走りました。開会式前のオープニングセレモニーでは、地元小学生による鼓笛演奏や、中学生による合唱が行われたり、たくさんのボランティアの皆さんによる大会運営で、体だけでなく心も温まるイベントになっているのも特徴です。

コースの途中やゴール前で、応援しながらファインダーを覗いていると、皆さん一生懸命走っている表情が印象的でした。ゴールでは、たくさんの方の満足感や達成感があふれるすばらしい笑顔を見ることができました。参加された方からは「大会当日だけでなく、これまでの練習も含めて「マラソン」です。」「練習は裏切らない。」などいろんな話を聞くことができました。

3月には高橋尚子さんをゲストランナーに迎えての「関シティマラソン」もあるので楽しみです。参加申し込みは今からでも間に合います！詳しくは「広報せき11月1日号」の15ページをご覧ください。

